

嘆願書

移民の使い捨て政策に団結して抗議の声を

移住権改革 前例なき抑圧！

私たちは、フランス政府が移民政策として準備中の CESEDA 法案を認めません！

CESEDA（外国人の入国滞在および庇護権法典）（注）の改革は、基本的人権を全面的に否定するものです。フランスにおいて生活を送るあらゆる外国籍の家族、配偶者、子供達の滞在権を極度に制限し、定住のための唯一の手段であった「正規滞在許可証」をほとんど消滅させ、病気を理由とする滞在とも真っ向から対立する改革だからです。

もしこの法案が可決されれば、フランス人と外国人が共に生き、家庭を築くことはきわめて困難になるでしょう。取得条件は際限なく増加し、正式な在留許可を得ることははかない望みとなるのです。

法案は、故意に功利主義を目指しています。他国から有能な人材だけを狩りいれる意志をあからさまに表明しています。フランスの経済的發展にとって有益だと認められた外国人だけが「受け入れられる」のです。認められなかった人々は、以降、当人や家族の状況がどうであれ、正式な滞在許可証を取得することはほとんど不可能になるでしょう。この法案によって新しい労働者のカテゴリーが生まれますが、その滞在期間は雇用者の意志によって決められます。これまでは、滞在が 10 年を超える外国人には正規の滞在許可が認められました。しかし、この制度も廃止され、外国人はいつまでも不安定な生活を強いられることになるでしょう。同様に、留学生の入国もこれまで以上に制限されるでしょう。

すでに正規滞在許可証を取得している人々にとっても、家族と生活を共にすることは離れ業になります。フランス政府は、外国人が祖国から家族を呼び寄せるために必要な条件（収入、住居、居住区の区長の意見）をより厳しくすることを予定しているからです。また、フランスで子供を持った外国人男性には、その父権を証明することまで要求しています。

このフランス政府の新しい移民政策法案を読んで分かることは、外国人は、居住者証を取得し維持するためには、「フランス社会にしっかり溶け込んでいる」、居住区の区長から良い目で見られている、配偶者と仲がいい、勤め先の経営者から評価されている、高収入でりっぱな住居を持つ等、次から次へと膨れ上がる条件を満たさなければならなくなるということです。

庇護権の改革は、難民の立場をより厳しいものにする可能性があることから分かるとおり、外国人が持つ権利全体を侵害するものです。私たち一人一人が責任を持ってこれに抵抗しなければなりません。外国人を公然と拒絶することで、フランス政府は私たちを外国人と意図的に対立させ、私たちの生の基礎である自由を放棄するからです。

以上のような事情から、私たちは、可決すればフランスに滞在するあらゆる外国人を、権利の剥奪された、不安定で、雇用者、行政そして権力者の独断に手も足も出ない二流の市民に貶める CESEDA 改革に反対するための行動を起こすことを呼びかけます。

(注) CESEDA : Code de l'entrée et du séjour des étrangers et du droit d'asile

署名を集めています。

署名用紙は以下の URL にてダウンロードできます。

http://www.contreimmigrationjetable.org/IMG/pdf/uni-e-s_contre_une_immigration_jetable.pdf

必ずすべてローマ字（最後のサインの欄を除く）で記入して下さい。